

亞示第丁時報

亞國政界 刻下の情勢

亞國憲法は改定は五月一日開会  
九月廿日に開会するべき議會は既  
に六日を経過したる今日に至ると  
未だ正式召集の時日の発表なく、  
今や立法改革とする議會は議會百  
票の権限を失つて、議會召集  
の権限は一つに之を行政を司る  
政府の憲法に依存するの観を呈  
へ呈するに至つて居り、三権分立  
は政治上の空論に過ぎず、五日の  
ブレインサックの論議の叱責を蒙  
つて居る状態にあるの、二度に流  
会を余計なくさるに下院開會準備  
のため下院議員總會と、漸く五  
日下院開會問題と、近く大統領の  
院議長と遂に決定、近く大統領の  
議會召集命令を宣布される事は思  
はれるが、今の議會は開會前より  
既に政黨相克の修羅場を現出、下  
院議員六十名を有するデモクラ  
チック・オナール左派と、同じく十  
数名を有するラザカル・アンチペ  
ル・リスタ右派有力支持者とする保  
守派政黨プロックと、下院議員四  
十数名を有するウニオン・シビカ、ラ  
ザカル左派と、同じく廿数名を  
有する社會黨右派支持者とする意  
進派、プロックとの対立は愈々尖

鋭化、奮動する低氣壓裡に、諸政  
案を統る政黨の攻防戦は展開され  
るとの、観測される。

何故に下院議員總會の三度以  
上開會するに至る迄、下院議長任命  
問題の重大視するに至つたか、  
其を檢討するに先立って、其は未  
だ九月の大統領選挙に連関を有す  
るものがあるを以て、大統領候補者  
に就ての一瞥を呈する。

即ち今大統領選挙に關しては  
ラザカル黨に於ては未だ大統領候  
選者の指名さへなく、又候補者の  
決定を見るに至らず、落選を予想  
せられて居る現在、然る未だの大統  
領には保守派プロックの全政黨の  
擁立する英の現職相ロバート・オ  
リスの起す事と予測されて居る  
が、副大統領候補者に關しては  
保守派プロック各政黨間に意見一  
致せず、現上院副議長ロブ・スチ  
ム、パドロン・コスタ、現農相ミゲ  
ル・アンヘル・カルワン、現内相ラモン  
・カステラヨ、現武市大学校長ロ  
ン・ゲイザヨ等の叫び声高く、そ  
の中、最も有力視するはデモクラ  
チック・オナール左派と、同じく十  
数名を有するラザカル・アンチペ  
ル・リスタの支持を有するガイ  
・サヨ、此の二人である。

斯る状態にある折柄、下院議員  
總會は開會の際、大統領選挙候補  
者得票同数の場合は決定権を有す  
る今開會の、下院議長任命の時  
は迫つて来た、双方互に派別七十  
余を有する保守派プロックと、急進  
派プロックは議長を擁護すべく、  
白兵戦を演ずる事になり、保守  
派として準備して居る西院何方  
に就くか、去就に迷つて居るプロ  
ックは、議員を自派に引入れる事か  
出派は勝利を博する事が出来る正  
場にあるの、其の方面へ、漸  
き分け、議員總會を三回迄  
と派合せしめたいのである。

小の範圍に出たのであつた。  
英のウヰクマンは元來ガイ・サヨの  
出身地であり、副大統領としてガ  
イ・サヨの起すを望望して居る。茲  
にウヰクマン州選出議員連は保守派  
プロックに傾くは良しとするが、  
其の結果は其の盟主デモクラチ  
ク・オナールの後援候補者パドロン・  
コスタを支持せざるを得ない立場と  
なり、ガイ・サヨの副大統領起すは  
希望薄と云ふべきである。

即ちデモクラチク・オナールとし  
ては現上院副議長として、正副大  
統領の突撃手段による政務改革不  
可能の場合には、之を放棄し得る

而してファスト大統領死後、ウヰ  
クマン訪問は、視察に過ぎない同地  
政界改革のために保守派が行つた  
既の政治工作なのであつて、同地  
に於ける保守派の地盤を固め、政  
保守派のため有利に展開せしめよ  
るのである。

最終の議員總會は開會の際、結  
つたウヰクマン選出政黨は保守派プロ  
ックに加担せしめたいのである。デ  
モクラチック・オナールは下院議長  
の椅子を獲得し得ず、その候補ロ  
ドリ・グロミアは七十一票を獲得、  
七十五票を得たウニオン・シビカ、ラ  
ザカルのカルロス・エルのための印  
票の差を議長の前を占據せしめ  
るのである。

従つて急進派プロックの大統領  
候補者を出さざる場合、副大統領  
としてガイ・サヨは当然急進プロ  
ックの大いなる支持を受けるであ  
り、元來の正副大統領は現在保守  
派プロックに傾くは居るのである  
が、元來はウニオン・シビカ、ラ  
ザカルの分派であるラザカル・アン  
チペル・リスタの占むる地であり、  
日を経る内には漸次保守派の政策  
より急進派の政策に移行するの  
は、ふいふと見ゆるに至つてお  
るのである。

從つて急進派プロックの大統領  
候補者を出さざる場合、副大統領  
としてガイ・サヨは当然急進プロ  
ックの大いなる支持を受けるであ  
り、元來の正副大統領は現在保守  
派プロックに傾くは居るのである  
が、元來はウニオン・シビカ、ラ  
ザカルの分派であるラザカル・アン  
チペル・リスタの占むる地であり、  
日を経る内には漸次保守派の政策  
より急進派の政策に移行するの  
は、ふいふと見ゆるに至つてお  
るのである。

從つて急進派プロックの大統領  
候補者を出さざる場合、副大統領  
としてガイ・サヨは当然急進プロ  
ックの大いなる支持を受けるであ  
り、元來の正副大統領は現在保守  
派プロックに傾くは居るのである  
が、元來はウニオン・シビカ、ラ  
ザカルの分派であるラザカル・アン  
チペル・リスタの占むる地であり、  
日を経る内には漸次保守派の政策  
より急進派の政策に移行するの  
は、ふいふと見ゆるに至つてお  
るのである。

求む！

ボサード市行、唯  
子洋服専門ブランドナマドール  
一名、及びナントレーロ一名、  
守院次第にて高級互支払ふ、  
春組左記に於て、  
又原松也  
山口喜代志  
Humboldt 19 2013  
午前十一時、午後九時

尋入

長崎原高系部移谷村出身  
宮崎直三郎殿  
石本人又、御水田ノ方御手致  
下ら至是現住所一報、下院  
議上ト  
伯國聖州パウリス廷長統  
ガリヤ東部島ハ、海老原方  
場 宮崎直次

日本レコードの  
特約販賣開始

コロムビア、グランド、ポリドール  
會社製品各種、最新盤近日到  
皆、御一報、御手致上、御手  
御檢文下度、  
カセーロス街一五六七  
U.T. ニミ、ハ一七七  
藏 田書店

西院特別記事  
將來の人事衙公

### 駐米大使として赴任の途次 王正廷・杉山陸相と会見

(東京七日)新任駐米大使王正廷は赴任の途次日機乗入港に於て、午前十一時半官邸に佐藤外相を訪問し、正午まで三十分間に亘つて東朝の挨拶等々日米間の一紙的問題は話し及ぼす意見の交換を行つた、同席時半より外相代理堀内次官の歓迎会に臨み更に杉山陸相共の他を訪問挨拶等し同六時横濱出帆、パー号で渡米の途についた。

#### 会談内容

米國赴任の途日本に立ち寄つた駐米大使王正廷は七日午後四時陸相官邸に杉山陸相を訪問、三十分は亘り日米外交打席に於ける重要談話を遂げた、会談内容は次の通りである。

王正廷「此處数年米日外交上には各種の障害があり如何にしたら此の障害を除去する事が出来るかと機会ある毎に貴國有力者の意見を聴いて見なが、本日閣下は敬意を表すると共に個人の資格で右に因する御意見を伺ひたい」

杉山陸相「日米兩國關係が依然として今日の状態にあるは眞に遺憾千万であつて一日も速かに日

米國交關係の明瞭にすべきにしてゐる、貴國には今の日本は貴國に信

頼するものありとの觀念を有する者があるが、日本の欲するは兩國間の経済的提携をして兩國の共存共栄を計り以つて東亞民族の安全を確立するに念願するに外ない」

王正廷「要するに兩國間の障害を去る可き長を除去し得るなら日米兩國の外交を調整し得るものと思つて居る」

杉山陸相「日米間が今日の如き状態を続けることは何人も欲せぬ處で速かに排斥日を止めて日本と提携して行く気分を工作るのが第一である、閣下も是が實現に努めていただきたい」

陸相は更に右会見後官邸に於て前外務大臣有田八郎と約一時間重要談話を行つた。

#### 地方長官會議

##### 来る十七日から一週間開催

(東京七日)地方長官會議は七日の閣議で十七日から一週間開催する事に決定した。内務省では直ちに七日各地方長官召集の電報を差した。

同會議は於ては林首相より現内閣の政策を闡明すると共に非常

時局適當の決意を明かにし、地方の時局に対する認識を一層深めるべく努力を命じ、旨を訓諭、結果は新法は先行して指示する

#### 帝都附近一帶の防備

帝都附近一帶の防備は、近一帯の空守りの重要を期するに於て陸軍内務省の警備隊は、帝都府、東京府、東京市、神奈川、横浜、帝大航空研究所、建築学会が結成され、非常時帝都の防備に力を出すことにあつた。

### 林内閣の打倒を期する 在野二大政党的態度強硬

#### 来るべき政、民新議員總會

(東京五日)民政党では五日午後二時から本部に於ける選挙委員会を開き協議の結果七日午前九時から臨時總會を開き新議員總會に於ける總裁の演説内容を正式に協議した後、同日午後九時に新議員總會を開き席上町田總裁の演説を以て重なる内閣の態度を中外に宣明し以て林内閣の打倒を期する事に決定した。

「政府は組閣の時時議會を尊重して民意に向ひて責任を負つて進退する旨を聲明した言責は省み違ひに國民の判決に服す可きは當然である然るに尚且つ非常議の口実をもうけ一日の生命を盗まんとするか、如何にも随分である。現内閣は於て眞に滅私奉公の誠意を以て進退するべきである」として革新政策の確

民大衆を基礎とする新内閣の予はより速に実行せしむ可きである」

政友会 七日午前臨時總會を開き、同會對政府方針を決定し、引続き午後一時より臨時幹事會を開き、安藤幹事長より我々は國民の總意に基き政府が速かに總辞職して解散の責任を負ふべき事を決定する、若し政府が随分の手緩き態度で居坐り居るに於ては挙國一致断乎として、上野憲を襲撃し奉り下野民を欺瞞するの非道な徹底的に糾弾する事を決議すると云ふ、臨時總會の議決を提示したるに對し各議員、各幹事より同様の強硬意見あり、清堀一致右報告案を可決、次いで安藤幹事長は右決議案の正式態度とするため十一日午後二時より本部に議員總會を開くことと計り直ちに之が準備に着手した。

**KEROFIX**  
DEL SR. ALEMAN (MARTIN)  
M. SEITZ & Cia

EXPOSICION Y VENTA TALLER  
DEFENSA 321 CHARCAS 4511  
U.T. 33 - Av. 1528 U.T. 71 - 9558

**ブランケヤ機カルデーラ**

用ケマドリス、デケロセン製  
作販賣並修繕取付交換格安に  
て引受け、当方はカヤホルカン以  
末御馴染みのドイツ人で日本人  
諸君向に数々の顧客を有し  
仕事は入念迅速、電話で御一  
報次々至急参上致します

**ケロフイヌ商会**



### 汎米協会の経済的使命遂行のため 武市汎米通商会議設置

汎米協会は一九三五年のパンアメリカ国際通商会議の協定に基づいて汎米協会の経済工作遂行、商工、農牧、鉱業上の調査統計報告等の協同加盟国間に於ける国際的交採、各種産物見本陳列館設立等の実現のために必ずすべきプロジェクトス汎米通商会議（フタナナアメリカナ・デ・コメルシオ）を設置するに決定、去る五日

### 棉花の收穫大減少を予想 但し高値で農家収入は

昨年とトシトシか  
示すに至つてある。

亞細亞棉業会では去る五日、三月より既に繰入れ開始中の一九三六、三七年棉花收穫分二回予想を發表したが共によれば、今期の棉花收穫量は五万二千九百七と見做され、十五年未見の大早魃のため今マヨ及びサンチャゴ・デ・ル・エス・テ・ロ東部地方に於ては異常なる收穫減少を来し、一エクタレアの平均産出量が昨年は六八〇キログラムであったものが今年には四百キログラムと激減してあるが、全国を通じての一エクタレアの平均收穫高は六五三キログラムと見做され、次期表にて明

▲一エクタレアの平均收穫高(キログラム)	九七四
一九三七年	二八二九
一九三六年	二九一三〇
一九三五年	三〇一三一
一九三四年	三二一三三
一九三三年	三三三三四
一九三二年	三三三三五
一九三一年	三三三三六
一九三〇年	三三三三七
一九二九年	三三三三八
一九二八年	三三三三九
一九二七年	三三三四〇
一九二六年	三三三四一
一九二五年	三三三四二
一九二四年	三三三四三
一九二三年	三三三四四
一九二二年	三三三四五
一九二一年	三三三五六
一九二〇年	三三三三七
一九一九年	三三三三八
一九一八年	三三三三九
一九一七年	三三三四〇
一九一六年	三三三四一
一九一五年	三三三四二
一九一四年	三三三四三
一九一三年	三三三四四
一九一二年	三三三四五
一九一一年	三三三四六
一九一〇年	三三三四七
一九〇九年	三三三四八
一九〇八年	三三三四九
一九〇七年	三三三五〇
一九〇六年	三三三五一
一九〇五年	三三三五二
一九〇四年	三三三五三
一九〇三年	三三三五四
一九〇二年	三三三五五
一九〇一年	三三三五六
一九〇〇年	三三三五七

### 好成績に終つた 一億ペソの内債募集

国内経済界好転の相証顯著なるものあるに鑑み此の際政府は外債の一部を内債に切替へんと欲し、外債償還に當るために一億ペソの内債を中央銀行の予通して去る四日発行、其れに先立ちフスト大統領及オルティス蔵相は三日午後九時政務サロンプランコエリラケオを巡りて全国民に呼びかけ、今内債償還義務説きため放しに放し、送説をなした。債券発行第一日目に於て早くも応募額は一億ペソを超過、藏相は此の好結果に鑑み更に同様目的を以て一億ペソの内債募集を実行せんと考定中である。

### フスト大統領 コルトバ、カタマルカ リオア三州を訪問せん

通般西北部地方旅行を終へて帰武

ACADEMIA DE BAILES  
**SARITA**  
CANGALLO 1279

拡張に次ぐ拡張！ 終は舞踏場は最初の二倍、ダンスの数は廿五名とふりました。この際、特に日本人の方には限り、初歩用のチケットを二割引致します。是非この機会にバイレを御習得下さい。

舞踏教師 サラ・ムニヨス

したフスト大統領は今月末にエントレリオス州を訪問、ケアレグアイチネ、プエルト・ノスタナ同道路の竣工式に臨場する予定であるが、更に六月五日にはコルドバ市へ自動車旅行をなす、それより鉄路又は船にてカタマルカ、リオア、州訪問をなす。市は再び武市帰還の予定である。

**日本文化協会の企て**  
日本文化の宣揚は先づ書籍を通じて、読者階級から目指して、巨額大文化協会では今九善書店と提携の下に日本に關した外国語の書籍の取次事務を開始、日本に關心する亞細亞知識階級の便宜を図る事とし、カナル海軍少将、旗本達吉、橋本武蔵三氏を本員に挙げ、早速文書籍の採擇に乗りか、つたが、三氏は既に要領十冊前後売價の良書と約二百冊採擇、近く注文を發することになった。

**KEROFIX**  
DEL SR. ALEMAN

プランチヤ機力  
ルデー用のケ  
マドレーヌ、デ  
ケロセン

製作販売並に修  
繕取付交換を價  
引受け  
日本人向に数多  
の顧客を有し仕  
事に入念迅速、  
電話で御一報次  
才至急お上致し  
ます。

PACHECO 3260 U.T. 51-3252

ALMACEN  
**NISHISAKA**

鹽油味噌 製造販売  
漬物 調味料  
日本食料品輸入販売  
電話方一箱 十五ペソ

西坂實大商店  
市四アストリア街二〇一  
四二二(サンタス)二九一五

### 異境の病院で

#### 寂しさに泣く幼き姉弟

□：父母は既にバラグワイへ

バラグワイ行き移民として父母は伴はれて遠く南米の果まで去つてついで来た幼い姉弟が、不幸病氣となり異境の空でこもこも父母と別れ、今西も東も言葉も何も彼も判らぬ当地の公立病院で寂しさに泣いてゐる。移民哀話、

四月廿四日バラグワイの四本植民地に向け雄々しく出発した一團十三家族の移民の内、福島県人寺島光利氏子や、深田(十二)さん、同功(九)君の姉弟は、アエノス着後日前より類似マラリヤに罹されてゐたので、着後直

ちには、ニス病院に移されてしまふ。その日から、あつかしい

父母の顔も見られぬ。ついで終つた。色々矢張り規則によつて二児の父母が断腸の思ひで可愛らしい子うさ冷い病院に預け、とうとうバラグワイへ旅立つて終つたことは勿論である。

異国で何も彼もサッパリ判らぬ。いかに可愛らしいそのお涙を、この功君の姉弟は、アエノス病院の分七病棟とテノ病棟に別れ、くは収容されて療養中であり、経過大変良く熱も平熱となり近く退院出来る模様であるが、何と周囲は見るもの、聞くもの、全く異様である。この、小さい胸に大きな精神の打撃を打けるこの父母を、寂しさに泣き暮らして

ある。哀れむ二児を見舞つた記者と偶然会つた村田拓務書記生の話によれば、二児が退院後はどこかの宿屋に一週間程預かつて貰つて植民地より誰か出立を促し連れ戻して貰ふ考へてゐるとの事であつた。

それに依れば帝國々際学友会では日本文化研究生及自然科学研究生各一名即ち二名の異国人の日本留学生に對し日本滞在費として毎月百六十円を二年間給する。尚ほ先要の場合は一ヶ年は限り給付期間を延期しても宜しいといふ條件である(但し旅費は自給)公使館では給付方を日本文化協会に委託した。

使館宛アルゼンチン人の日本留学生二名の訪談進方まで依頼して来た。

前テ杯選手 藤倉二郎氏の來亜

曾てのテ杯選手であり現在在留園庭球選手権保持者たる、赤山農林株式會社社員藤倉二郎氏は、今回異國球球協會より同協會主催のオデラブラタ選手権大会に招待され、今八日朝入港の伊太利船アラゴスト号で來亞する。リオデラアラタ選手権選手権争奪戦は明日九日から西市テニスクラブコートに於て行はれるが、藤倉選手はダブル試合には伯國選手アゴスチニ(相手不明)とシゲルは亞國選手シゲル氏と對戦する予定である。

客が明日九日午後五時リパデラ街一三九五。土井氏宅に於て盛大に催される由。

小郡聯合會は去る六日夜三つ、旅行に於て知友五十餘人を招き留別の宴を催つた。本府内五平氏は長男哲夫君の留別宴を昨七日夜自宅で催した。内外人多敷列席して盛會。山口善代志氏四日ホワダ入市より出、約十日間滞在の予定。

石井忠吉氏 Ladies' Luncheon 1/59 (Clerks' Club at 1/25 62) 久慈忠吉 Regatta 1951

全邦及海外外人等約百餘名が、豊富の賞品を用意して各社陸上競技一千米競走、バレー等を行ひ、用意のアサードもあり若男女同様の格闘もあつた。一日充分清遊した由。

サンタフェ市同會のピクニック

サンタフェ市同會では去る三月三十日市外「グランドエグゼニル」の廣大な園内にピクニックを催した。當日は同地の外人

の如く決定、

會長 中村米平

副會長 鈴木謙一郎

幹事 堀沢長助

副幹事 大城正雄

會計 宮田政市

副會計 崎向慶徳

理事 有水藤次郎 片山良平

深田八重郎 及川晋次

西坂實太 府内忠平

本田伊吉 宇野九郎

會計監査 安野毅一 林甚次郎

既報一在亞日本人會の本年度第一回役員會は去る四日午後十時から同會館に開會、出席者は有水、堀沢、本田、深田、片山、宇野、西坂、崎向の八氏で、中村、宮田、府内三氏は委任。

席上先づ役員互選あり続いて各評擔任の詮議を以て散會した。本年度役員の新陣容は左

### 亞國人の日本留学生

#### 帝國々際学友会が費用補助

使館宛アルゼンチン人の日本留学生二名の訪談進方まで依頼して来た。

それに依れば帝國々際学友会では日本文化研究生及自然科学研究生各一名即ち二名の異国人の日本留学生に對し日本滞在費として毎月百六十円を二年間給する。尚ほ先要の場合は一ヶ年は限り給付期間を延期しても宜しいといふ條件である(但し旅費は自給)公使館では給付方を日本文化協会に委託した。

使館宛アルゼンチン人の日本留学生二名の訪談進方まで依頼して来た。

それに依れば帝國々際学友会では日本文化研究生及自然科学研究生各一名即ち二名の異国人の日本留学生に對し日本滞在費として毎月百六十円を二年間給する。尚ほ先要の場合は一ヶ年は限り給付期間を延期しても宜しいといふ條件である(但し旅費は自給)公使館では給付方を日本文化協会に委託した。

使館宛アルゼンチン人の日本留学生二名の訪談進方まで依頼して来た。

それに依れば帝國々際学友会では日本文化研究生及自然科学研究生各一名即ち二名の異国人の日本留学生に對し日本滞在費として毎月百六十円を二年間給する。尚ほ先要の場合は一ヶ年は限り給付期間を延期しても宜しいといふ條件である(但し旅費は自給)公使館では給付方を日本文化協会に委託した。

使館宛アルゼンチン人の日本留学生二名の訪談進方まで依頼して来た。

それに依れば帝國々際学友会では日本文化研究生及自然科学研究生各一名即ち二名の異国人の日本留学生に對し日本滞在費として毎月百六十円を二年間給する。尚ほ先要の場合は一ヶ年は限り給付期間を延期しても宜しいといふ條件である(但し旅費は自給)公使館では給付方を日本文化協会に委託した。

使館宛アルゼンチン人の日本留学生二名の訪談進方まで依頼して来た。

それに依れば帝國々際学友会では日本文化研究生及自然科学研究生各一名即ち二名の異国人の日本留学生に對し日本滞在費として毎月百六十円を二年間給する。尚ほ先要の場合は一ヶ年は限り給付期間を延期しても宜しいといふ條件である(但し旅費は自給)公使館では給付方を日本文化協会に委託した。

使館宛アルゼンチン人の日本留学生二名の訪談進方まで依頼して来た。

それに依れば帝國々際学友会では日本文化研究生及自然科学研究生各一名即ち二名の異国人の日本留学生に對し日本滞在費として毎月百六十円を二年間給する。尚ほ先要の場合は一ヶ年は限り給付期間を延期しても宜しいといふ條件である(但し旅費は自給)公使館では給付方を日本文化協会に委託した。

使館宛アルゼンチン人の日本留学生二名の訪談進方まで依頼して来た。

それに依れば帝國々際学友会では日本文化研究生及自然科学研究生各一名即ち二名の異国人の日本留学生に對し日本滞在費として毎月百六十円を二年間給する。尚ほ先要の場合は一ヶ年は限り給付期間を延期しても宜しいといふ條件である(但し旅費は自給)公使館では給付方を日本文化協会に委託した。

使館宛アルゼンチン人の日本留学生二名の訪談進方まで依頼して来た。

それに依れば帝國々際学友会では日本文化研究生及自然科学研究生各一名即ち二名の異国人の日本留学生に對し日本滞在費として毎月百六十円を二年間給する。尚ほ先要の場合は一ヶ年は限り給付期間を延期しても宜しいといふ條件である(但し旅費は自給)公使館では給付方を日本文化協会に委託した。

使館宛アルゼンチン人の日本留学生二名の訪談進方まで依頼して来た。

それに依れば帝國々際学友会では日本文化研究生及自然科学研究生各一名即ち二名の異国人の日本留学生に對し日本滞在費として毎月百六十円を二年間給する。尚ほ先要の場合は一ヶ年は限り給付期間を延期しても宜しいといふ條件である(但し旅費は自給)公使館では給付方を日本文化協会に委託した。

使館宛アルゼンチン人の日本留学生二名の訪談進方まで依頼して来た。

それに依れば帝國々際学友会では日本文化研究生及自然科学研究生各一名即ち二名の異国人の日本留学生に對し日本滞在費として毎月百六十円を二年間給する。尚ほ先要の場合は一ヶ年は限り給付期間を延期しても宜しいといふ條件である(但し旅費は自給)公使館では給付方を日本文化協会に委託した。

使館宛アルゼンチン人の日本留学生二名の訪談進方まで依頼して来た。

それに依れば帝國々際学友会では日本文化研究生及自然科学研究生各一名即ち二名の異国人の日本留学生に對し日本滞在費として毎月百六十円を二年間給する。尚ほ先要の場合は一ヶ年は限り給付期間を延期しても宜しいといふ條件である(但し旅費は自給)公使館では給付方を日本文化協会に委託した。

使館宛アルゼンチン人の日本留学生二名の訪談進方まで依頼して来た。

それに依れば帝國々際学友会では日本文化研究生及自然科学研究生各一名即ち二名の異国人の日本留学生に對し日本滞在費として毎月百六十円を二年間給する。尚ほ先要の場合は一ヶ年は限り給付期間を延期しても宜しいといふ條件である(但し旅費は自給)公使館では給付方を日本文化協会に委託した。

使館宛アルゼンチン人の日本留学生二名の訪談進方まで依頼して来た。

それに依れば帝國々際学友会では日本文化研究生及自然科学研究生各一名即ち二名の異国人の日本留学生に對し日本滞在費として毎月百六十円を二年間給する。尚ほ先要の場合は一ヶ年は限り給付期間を延期しても宜しいといふ條件である(但し旅費は自給)公使館では給付方を日本文化協会に委託した。

使館宛アルゼンチン人の日本留学生二名の訪談進方まで依頼して来た。

### 邦人キニテロ口轢死

#### 南緯線マルモル取踏切で

南緯線沿線クライボレ村に於て蔬菜園經營の比嘉謙次(四四)は去る四日早朝パンファイルの市場へ野菜を荷馬車に満載して出向の途中、午前五時五分分ラプラタ線マルモル取踏切の踏切に差かゝつたところ踏切の横木も下りて居らぬかゝつたので何気なく通過中、折から「ベロ」取エリボスケ取に向け暴進して来た一両、同車は車馬共三百米近く、マルモル取踏切内まで引きずられ無惨に轢死した。この不幸な遺族夫人は四人の子供を養へて悲歎に暮らしてゐる。

既報一花井園藝組合副會長並に亞國在邦市場組合副會長である相沢一壽氏は廿三年旅りにて来る八日、早朝同園訪問の途に上るので、その送別午餐會が去る六日市内リマ街ムニケ料亭に於て盛大に催された。參會者は花井市場関係の外人十數名を加へて約八十名に達し、席上買果組合長「アミア」市場組合長、高橋、谷本、林、高市、池田諸氏送別の詩を贈り相沢氏の謝辞あり、それより記念撮影が午後二時近く散會。

土井増吉氏結婚披露宴

土井増吉氏と令兄同友吉が同僚兼近した森原謙吉さんとの結婚披露宴

サンタフェ市同會のピクニック

サンタフェ市同會では去る三月三十日市外「グランドエグゼニル」の廣大な園内にピクニックを催した。當日は同地の外人

の如く決定、

會長 中村米平

副會長 鈴木謙一郎

幹事 堀沢長助

副幹事 大城正雄

會計 宮田政市

副會計 崎向慶徳

理事 有水藤次郎 片山良平

深田八重郎 及川晋次

西坂實太 府内忠平

本田伊吉 宇野九郎

會計監査 安野毅一 林甚次郎

既報一在亞日本人會の本年度第一回役員會は去る四日午後十時から同會館に開會、出席者は有水、堀沢、本田、深田、片山、宇野、西坂、崎向の八氏で、中村、宮田、府内三氏は委任。

席上先づ役員互選あり続いて各評擔任の詮議を以て散會した。本年度役員の新陣容は左

會長 中村米平

副會長 鈴木謙一郎

幹事 堀沢長助

副幹事 大城正雄

會計 宮田政市

副會計 崎向慶徳

理事 有水藤次郎 片山良平

深田八重郎 及川晋次

### 相沢一壽氏送別會

既報一花井園藝組合副會長並に亞國在邦市場組合副會長である相沢一壽氏は廿三年旅りにて来る八日、早朝同園訪問の途に上るので、その送別午餐會が去る六日市内リマ街ムニケ料亭に於て盛大に催された。參會者は花井市場関係の外人十數名を加へて約八十名に達し、席上買果組合長「アミア」市場組合長、高橋、谷本、林、高市、池田諸氏送別の詩を贈り相沢氏の謝辞あり、それより記念撮影が午後二時近く散會。

### 前テ杯選手 藤倉二郎氏の來亜

曾てのテ杯選手であり現在在留園庭球選手権保持者たる、赤山農林株式會社社員藤倉二郎氏は、今回異國球球協會より同協會主催のオデラブラタ選手権大会に招待され、今八日朝入港の伊太利船アラゴスト号で來亞する。リオデラアラタ選手権選手権争奪戦は明日九日から西市テニスクラブコートに於て行はれるが、藤倉選手はダブル試合には伯國選手アゴスチニ(相手不明)とシゲルは亞國選手シゲル氏と對戦する予定である。

### 土井増吉氏結婚披露宴

土井増吉氏と令兄同友吉が同僚兼近した森原謙吉さんとの結婚披露宴

小 狼 走 - タ ス 弗 万 百  
坊 一 天 ン ケ リ メ  
夜 汎 瀾 の ル プ - ゲ . ク - ラ ク

二 ユアンズと云つた男性美でカンセン銀器の人  
氣を惹きつける十兩役者、いやす百兩非優り  
ラーク・ゲイアル林の落し肌といふのが現れて、  
たゞさへうるさいハリウッドに時を求め、女天一方の  
驚愕的結末を撒き散らしてゐる、その筋書といふのは  
はまた映画のストーリーを地で行つたやうな興味満  
足のしるものなので、濡衣をきせられたいの  
ゲイアル君はさんざんクシヤミをしたせいか風邪を  
で引きこんでバリーヒルの豪華な邸宅で永世を頭  
にヤツトにさぐつたまま、すつかりくすり切つてゐる  
といふ人気が俳優界を驚かしたり、三月一日か  
ら開かれたこの事件の公判にはハリウッドの男俳優  
も相当出陣するので満員の盛況を呈して大さわぎだ。

大 寫 し 戀 人 の 顔

十四年間忘れ得ぬ面影

今から三年前のイオレット・ノートン夫人(現在四十  
ある日の夕方、セオは子供のためにフランク・ペリ  
カナが、ウナニヤツク市、とあ  
る映画館へ機の手を引いて入場し  
た一人の中年婦人があつた、何気  
なく映画に見入つてゐる夫人はモ  
の映画の主役、若い新聞記者に扮  
した俳優が夫として画面に現れた  
瞬間、お！フランク！と思はず声  
あげた、そして凝結したやうに銀  
幕をみつめサトウのあつた反  
その

の主人公ウ  
してゐたこ  
出たので、遂に合衆国憲法が活動  
と成り、当のノートン夫人、スミス  
探偵は告発され二月一日刑務所に  
収容され、この三月一日から公判  
が開かれてゐる。

根 本 不 正 義

先 事 が 證 人 に 起 っ

つかれ、フランク君等は行方  
不明になり夫人は離婚されて  
しまつた、そして夫人は密かに  
生手買ひしたから悪心を起し人  
に生手買ひしたから悪心を起し人  
に生手買ひしたから悪心を起し人  
に生手買ひしたから悪心を起し人

このスキヤンガルに對してハリウ  
ッドの噂では、余りにノートン夫  
人の態度が眞剣だから、或はホン  
トだらうといふ者、檢査ゲイアル  
に生手買ひしたから悪心を起し人  
に生手買ひしたから悪心を起し人  
に生手買ひしたから悪心を起し人  
に生手買ひしたから悪心を起し人

(映) 画はクリューグ・ゲイアルが主演  
し同年アカデミー賞を受賞した、或  
る夜の出来事であつた、(今)二  
重宝で夫人の思出に変わる、話はず  
ちに十四年前に瀕するところの英  
國エセツリスのシヨアウツドは平  
で銀幕上に躍る彼を養見したので

このスキヤンガルに對してハリウ  
ッドの噂では、余りにノートン夫  
人の態度が眞剣だから、或はホン  
トだらうといふ者、檢査ゲイアル  
に生手買ひしたから悪心を起し人  
に生手買ひしたから悪心を起し人  
に生手買ひしたから悪心を起し人  
に生手買ひしたから悪心を起し人

クボを見せながらかう語つた。

十 四 年 前

四年前にはオレゴン州のホー  
トランド市に住み、木材会社  
に勤めたり、デパートのネクター  
賣場に居たりして、その傍舞台に  
出て居た。僕は未だに英國なんの  
に足を踏み入れたことすらないん  
だ。併し二年越し、こんな問題に  
付き纏はれて痛つてしまつた。  
ゲイアルの先妻ジョセフ・デイ  
ンも口入アンセルス市に住んで  
居るが、ゲイアル君の爲に有力な  
證人となり公判の折證人台上に立つ  
事となつた。先妻デイン君は  
ノートンさんの恋愛問題は全然嘘  
なんです。お話の十九年三三年前に  
はノートンさんの小尉で私の言  
ひた對照に「ジョナサン」と云ふ役を  
取つて出てゐました。がゲイアル  
は羞恥いて夜舞台に立つと云ふ昔  
難時代でした。先達でノートンさ  
んが娘を連れて私の所へも来まし  
たが、その時、眼と眼がゲイアル  
に生手買ひしてありエツホまで運搬  
を受けてゐるでせうと云つてまし  
た。私にも味方して鼻水は必ず  
おれはすると云つてましたから、  
相当のお金を取る考へで居たやう  
でした。と語つてゐる。

所かかうした話の最中へ自分か本  
當の僕の父だといふのが現れた、  
いたづらやんかかせせぬが米人  
の事だから、これぞ屠刀の物だと  
みられてゐる。

所かかうした話の最中へ自分か本  
當の僕の父だといふのが現れた、  
いたづらやんかかせせぬが米人  
の事だから、これぞ屠刀の物だと  
みられてゐる。

病 養 所 土 地 家 屋  
購 入 寄 附 者 芳 名

五百〇〇也	大坂商船株式会社
五百〇〇也	三井物産株式会社
五百〇〇也	三菱商事株式会社
二百〇〇也	辻 才次郎
二百〇〇也	兼松 商店
二百〇〇也	高島屋 徳田株式会社
二百〇〇也	大村 商店
二百〇〇也	山田 商店
二百〇〇也	原 商店
二百〇〇也	石井 商店
二百〇〇也	廣田 商店
二百〇〇也	延満三三郎
二百〇〇也	鈴木 商店
二百〇〇也	勝田 商店
二百〇〇也	奥石 商店
二百〇〇也	兩米産株式会社
二百〇〇也	滝波 商店
二百〇〇也	本多 商店
二百〇〇也	横堀 商店
二百〇〇也	村井 太郎
二百〇〇也	安東 商店
二百〇〇也	横濱 商店
二百〇〇也	坂部 商店
二百〇〇也	高田 商店
二百〇〇也	大城 商店
二百〇〇也	日合 商店
二百〇〇也	昭和十二年三月廿五日 現在
申込金額	六五二八五
払込金額	一九〇八五
未払金額	四六四〇〇

Buenos Aires, sábado 8 de Mayo de 1937

SECCION CASTELLANA

Dirección: USPALLATA 981 U. T. 23-7051

## Príncipe Fumimaro Konoye, el hombre del porvenir

"Hemos publicado en números anteriores artículos sobre el Príncipe Saionji, figura máxima del mundo político del Japón actual, y explicamos la importancia de su personalidad e influencias a pesar de encontrarse retirado de las actividades de la vida política; las atribuciones que tiene como "genro", único sobreviviente de los ancianos notables, quien debe aconsejar al Emperador sobre el candidato que ha de reemplazar cada vez que produce el cambio del gabinete. También hemos esbozado al ex Primer Ministro Hirota. Las condiciones políticas del Japón que, según informaciones recibidas, continúan inseguras después de las elecciones generales del 30 de abril p.pdo., nos sugiere considerar acerca de las posibles actividades futuras del Príncipe Konoye".

El Príncipe Fumimaro Konoye, Presidente de la Cámara de los Pares del Japón fué el primer candidato elegido por el Genro para el cargo de Primer Ministro después del suceso de febrero de 1936, honor que declinó aquel por razones de salud, posee títulos y capacidades para encabezar cualquier lista de hombres dirigentes del Japón actual, a pesar de su edad comparativamente joven, según afirma el crítico veterano de la política japonesa: Tasuo Iwabuchi.

El Príncipe Konoye cuenta con cuarenta y cinco años de edad. Pertenece a la antigua familia del mismo nombre establecida por Kamatari Fujiwara en el siglo XII, cuyos orígenes remontan a la época de la fundación del Imperio, emparentada con la casa real. Graduado en Derecho en la Universidad Imperial de Tokio, actuó desde muy joven en la política como miembro prominente de la Cámara Alta de la que es ahora su presidente.

Su amistad con el Genro, le ha proporcionado, sin duda, experiencias de incalculable valor. Pero el Príncipe Konoye que está en el vigor de su vida, ve al mundo con otro criterio que el anciano hombre de Estado; mira más en las posibilidades del futuro que en los frutos del pasado. Saionji representa el pasado y Konoye el futuro del Japón. Dos figuras sobresalientes que se quieren como padre e hijo, ofrecen al país una escena significativa. El Príncipe Konoye no es sin embargo extremista; sus ideas no tienen nada de radical ni revolucionario. En el fondo los dos cultivan el mismo pensamiento político, con la única diferencia circunstancial que deriva del tiempo: se trata de dos generaciones, pasado y presente.

El Genro fué testigo de la organización del Japón moderno en cuya obra le cupo importante actuación. Su sabiduría y sus experiencias son inestimables, pero no es posible esperar de un hombre de 90 años que siga el giro del cambio del tiempo. Mientras tanto, el Príncipe Konoye comprende lo que está pasando en el mundo y esto lo habilita para una acción más creativa, sin desconfianza para el porvenir. El Príncipe Saionji teme

los cambios radicales en lo social y en lo político y prefiere optar por todos los medios la política conciliatoria; pero el joven Estadista que mira más lejos es optimista y aconseja una decisión firme para consolidar la situación política, considerando perjudicial dilatarla por mucho tiempo.

Se conocen ahora los pormenores de la entrevista de estos dos hombres en el mes de febrero del año pasado, que no se hicieron públicos por causa de la censura, revelan cosas interesantes. Dicese que el Genro recomendó al Emperador que encomendase al Príncipe Konoye la formación del nuevo Gabinete, basándose en que éste era el mejor candidato del momento, porque de todos los hombres más capaces era el que estaba en términos amistosos con los grupos militaristas y partidos políticos en general, inclusive la Cámara de los Pares. Pero este argumento fué rechazado por el Príncipe Konoye, quien opinó todo lo contrario, diciendo: Un hombre que posee apoyo firme, aunque tenga que verse con enemigos fuertes, está siempre en mejores condiciones que aquel que goza de fútiles simpatías populares porque esas amistades no arraigadas pueden, en cualquier momento, darse vuelta en su contra.

En ocasiones anteriores, discutiendo entre ambos sobre la recomendabilidad del almirante Saitó, el Príncipe Konoye habría manifestado su parecer adverso, aunque no se opuso abiertamente, sosteniendo que la situación requería una persona de acción decidida, significando con ello que era preciso obrar resueltamente hacia uno de los dos caminos abiertos: o sostener firmemente el gobierno parlamentario, o dejar que los militaristas organicen el gobierno burocrático; el Príncipe no teme que los militaristas hayan nada contra la opinión del pueblo, ni que abusen del poder, porque confía en su lealtad patriótica. El Genro prefirió, a pesar de todo, la acción suave del almirante Saitó, que si bien no hizo mal gobierno, tampoco pudo hacer nada para normalizar la situación.

El Príncipe Konoye, reconoce las debilidades de los partidos políticos en cuyas filas han penetrado elementos corrompidos que han perjudicado su prestigio, pero mantiene su fe en la seriedad de sus dirigentes y confía en su pronta reorganización.

Los recientes sucesos del Japón, la caída del gabinete Hirota, la franca censura de los miembros de la Dieta contra la acción del gabinete, que arrancó en pleno recinto la declaración del jefe del gabinete que juró respetar la Constitución, y que es un triunfo para los liberales del Japón, confirmaría la opinión del criterio citado, de que no estaría lejana la fecha en que ha de surgir en la primera fila de la política japonesa la figura que impondrá orden, y uniendo las voluntades de toda la nación, hará un gobierno ejemplar: el Príncipe Fumimaro Konoye.

### LOS RESULTADOS FINALES DE LAS ELECCIONES GENERALES

TOKIO, mayo 2. — Se dieron a conocer los resultados finales de las elecciones de renovación de la Cámara de Representantes, en las que se disputaron 466 bancas.

El escrutinio arroja los siguientes resultados por partidos: Minseitó, 179; Seiyukai, 175; el grupo socialista, 37; Showakai, 19; Kokumin Domei, 11; Tohokai, 11; Independientes, 25 y varios 9.

Se calcula que los partidos antigubernistas tendrán en la Cámara alrededor de 400 bancas. El actual gobierno sólo cuenta con once diputados que le responden con seguridad, aunque tiene apoyo de otros parlamentarios diseminados en diferentes agrupaciones políticas.

La ganancia considerable obtenida por el Partido Socialista de las masas constituye la característica de las elecciones: En Tokio, especialmente, fueron elegidos ocho candidatos laboristas.

En las esferas políticas toma cuerpo la opinión de que el primer ministro, general Hayashi, solamente podrá seguir en el poder si alega que existe un estado de emergencia nacional y pide al Parlamento la rápida solución de los asuntos, haciendo notar los peligros de otros disolución de la Cámara.

Por otra parte, hay pocas perspectivas de que los diputados de los partidos Minseitó y Saiyukai entren en componendas con Hayashi, debido a la circunstancia de que ambas entidades prometieron a sus electores que trabajarán para derribar al actual gabinete.

TOKIO, mayo 3 (Havas). — El general Hayashi anunció, según comunica la agencia Domei, que abraza el propósito de permanecer en el poder.

### DOS BECAS A LOS ESTUDIANTES ARGENTINOS OFRECE UNA INSTITUCION JAPONESA

El Instituto Internacional de Amistad Estudiantil, de Tokio, auspiciado por el gobierno del Japón ha hecho saber, por intermedio de la Legación del Japón en ésta, que ha instituido dos becas a favor de estudiantes argentinos para realizar estudios en el Japón.

Dichas becas consisten en el pago mensual de 160 yen por cada estudiante durante dos años. Los gastos del pasaje deberán ser costeados por el interesado o por instituciones públicas o privadas de la Argentina que quieran establecer el intercambio de estudiantes con el Japón.

Una beca será otorgada a un estudiante que se dedique a los estudios de la cultura japonesa y la otra, de ciencias.

El Instituto Cultural Argentino-Japonés se ha encargado, a instancia de la legación del Japón, a estudiar y gestionar la mejor manera de llevar al terreno de la práctica tan auspicioso ofrecimiento que viene a favorecer el desarrollo de las relaciones culturales argentino-japonesas.

### LLEGARA HOY UN CELEBRE TENNISMAN JAPONES

Es esperado hoy en el motonave Augustus el señor J. Fujikura, conocido tennisman japonés, radicado en Brasil, que viene, por invitación especial de la Federación Argentina de Tennis Club, para tomar parte en el torneo que se iniciará mañana en esta capital.

SINTONICE EL PROGRAMA DE LA

Osaka Shosen Kaisha

todos los miércoles a las 19 horas.

POR

RADIO  
EXCELSIOR

LAMPARAS "YAMADA" DE CALIDAD



Luz Clara - Terminación Prolija - Selección Especial

USE LAMPARA "YAMADA"

En venta en las buenas casas del ramo

### ¡Beba buen café!

EL CAFE DE SANTOS "AGUILA" está elaborado con los mejores cafés que se importan del Brasil, tostados y con un 10 o/o de azúcar abrigantado. ¡Nada más!

Muchos cafés que por ahí se expenden, ¿podrían afirmar otro tanto?

Deduzca Vd. y prefiera el

**CAFE DE SANTOS "AGUILA"**

ES UN PRODUCTO SAINT.

**SIMPATICA ADHESION ARGENTINA EN HOMENAJE AL EMPERADOR**

El día 29 de abril, en ocasión del cumpleaños del Emperador del Japón, a pesar de que ningún diario de la mañana anunció al público argentino la fausta fecha japonesa, hemos observado con suma complacencia la espontánea adhesión de algunas casas argentinas que adornando sus frentes con la bandera del sol naciente, nos acompañaron en el homenaje hacia el Soberano y hacia el Japón.

Además de los edificios de los diarios "La Prensa", "La Nación" y "La Razón", vimos flamear nuestras banderas en el Club del Progreso en la Avenida de Mayo, casa Gath y Chaves y Harrod's en Florida. En los dos edificios de Gath y Chaves estaban colocadas 8 banderas, 4 en Florida y 4 en Cangallo, llamando justamente la atención del público.

**ABOLICION DEL CONVENIO DE ARRENDAMIENTOS PERPETUOS**

TOKIO, mayo 1. — Han llegado a feliz término las negociaciones que se venían concertando para abolir la concesión de terrenos en arrendamientos perpetuos que el gobierno del Japón había otorgado a los residentes extranjeros en los primeros años de su apertura a las relaciones internacionales, hacen cerca de 80 años. Tratábase de un privilegio unilateral en beneficio de los residentes que no tenían razón de ser. Las potencias han comprendido que el hecho emanaba de un abuso de parte de ellas.

**ORIGENES DEL ALGODON QUE CONSUME LA INDUSTRIA JAPONESA**

Durante los doce meses, del primero de septiembre de 1935 al 31 de agosto de 1936, el Japón importó 4.444.538 fardos de algodón bruto, cuyas procedencias fueron como sigue:

India .....	2.076.912 fardos
Estados Unidos .....	1.553.462 "
China .....	267.271 "
Africa .....	119.133 "
Brasil .....	92.630 "
Chosen .....	85.109 "
Egipto .....	77.058 "
Rangoon .....	63.223 "
Perú .....	44.409 "
México .....	38.017 "
Turquía .....	13.844 "
Argentina .....	10.697 "
Otros .....	5.689 "

Total ..... 4.444.538 fardos

**ASOCIACION JAPONESA**

Ha quedado constituida la nueva mesa directiva de la Asociación Japonesa en la Argentina como sigue:

Presidente, señor Yonekei Nakamura; Vice-Presidente, Sr. K. Suzuki; Secretario, C. Shiwozawa; Sub-secretario, M. Oshiro; Tesorero, M. Miyata y Sub-Tesorero, R. Sakima.

Síndicos: Señores K. Annó y J. Hayashi.  
Vocales: Señores T. Arimidzu, R. Katayama, H. Fukada, S. Oikawa, K. Nishisaka, K. Funai, J. Honda y K. Uno.

**NUMERO EXTRAORDINARIO DE "LA VOZ DEL INTERIOR"**

El 29 de abril ppdo. en ocasión del aniversario del natalicio del Emperador del Japón, "La Voz del Interior" de la ciudad de Córdoba ha editado un número extraordinario dedicado a nuestro país.

La publicación contiene un cúmulo de informaciones relacionadas con la familia Imperial, condiciones financieras, económicas y comerciales, y otros datos de interés general que tienden a difundir los conocimientos del Japón en la Argentina, preparadas con inteligencia por el señor J. Alfredo Miltos de la redacción del diario citado.

Al propio tiempo que felicitamos al colega cordobés por su excelente trabajo debemos agradecerle por la realización de tan simpática obra que redundará en beneficio nuestro.

**INSTITUTO CULTURAL ARGENTINO-JAPONES**

El martes 4 del corriente se reunió la Comisión Directiva del Instituto Cultural Argentino-Japonés, haciéndose cargo de sus respectivas funciones los miembros electos en la Asamblea General del 27 de abril, de la que dimos cuenta oportunamente.

El señor Yonehei Nakamura, presentó la renuncia del cargo de tesorero a que había sido elegido, siendo aceptada y reemplazado por el Dr. Carlos Valmaggia.

El Sr. Nakamura pasó a la vocalía en lugar del Sr. Valmaggia.

Se constituyeron varias comisiones que atenderán las conferencias, curso japonés y asuntos relacionados con las becas del Japón.

<p><b>"NAMBEI"</b> Compañía de Importación y Exportación Sociedad Anónima Telegramas "NAMBEI" U. T. 3001, 3002, 3003, 3004, 3006 y 3571 T. T. Buenos Aires, 904 <b>SARMIENTO 470 BUENOS AIRES</b></p>	<p><b>A. HANAFUSA</b> Representante de Mitsubishi Shoji Kaisha, Ltda. <b>FLORIDA 229 U. T. 33-5460</b></p>	<p><b>F. KANEMATSU y Cía. Ltda.</b> Importaciones y Exportaciones JUJUY 136 - U. T. 45, Loria 5823 y 5824</p>	<p><b>S. TSUJI</b> Importador <b>BALCARCE 682 - U. T. 33 Avda. 5744</b></p>
<p><b>K. ANNO</b> The National City Bank of New York <b>BARTOLOME MITRE 502</b> U. T. Avenida 33 - 4081</p>	<p><b>S. YAMADA y Cía.</b> Importadores <b>MORENO 2039</b> U. T. Cuyo, 47-4364 y 4405</p>	<p><b>PIDA SIEMPRE</b> <b>Marca KANEBO</b> PARA TEJIDOS Avda. ROQUE SAENZ PEÑA 989 U. T. 35-7832 8.º piso Oficina D</p>	<p><b>LA MAISON SATUMA</b> Objetos de Arte y Antigüedades <b>ESMERALDA 1080 - U. T. 44-4392</b> Sucursal: <b>SUIPACHA 865 - U. T. 31-4837</b></p>
<p><b>H. KATO</b> Unica Fábrica Japonesa de Tejidos de Sedas y Gran Instalación de Tintorería <b>HERRERA 2097 y 2111 - U. T. 21-1841</b></p>	<p><b>IIDA y Cía. Ltda.</b> (Takaashimaya) Importadores y Exportadores <b>RODRIGUEZ PEÑA 162</b> U. T. Mayo 38-9419</p>	<p><b>M. OMURA</b> Importador de artículos generales del Japón <b>SAN MARTIN 235 - U. T. 33-2888</b></p>	<p><b>Sastrería JAPONESA</b> Fundada en el año 1916 de <b>S. KATAYAMA</b> <b>PIEDRAS 572 - U. T. 33-5452</b></p>
<p><b>SADAO HATTORI</b> IMPORTADOR Especialidad en artículos de Cepillería <b>LINIERO 640 - U. T. 45, Loria 3212</b></p>	<p><b>R. HARA y Cía.</b> Importadores <b>BELGRANO 1470</b> U. T. Mayo 38-2438 y 9437</p>	<p><b>S. ANDO y Cía.</b> Importadores <b>BERNARDO DE IRIGOYEN 143</b> U. T. Mayo 38-1402</p>	<p><b>GUIA JAPONESA</b> <b>LEGACION DEL JAPON: Reconquista 336. — U. T. 31-3193.</b></p>
<p><b>KATSUDA y Cía.</b> Importadores <b>MEXICO 1474 - U. T. 38, Mayo 2218</b></p>	<p><b>CARLOS C. ISHIY</b> Importador y Exportador <b>Bmé. MITRE 341 - U. T. 33 Avda. 9782</b></p>	<p><b>JIRO HONDA y Hno.</b> Importadores de Artículos Generales del Japón <b>MORENO 1320 - U. T. 38 Mayo 2718</b></p>	<p><b>CONSULADO DEL JAPON: Reconquista 336. U. T. 31-3193.</b> <b>CAMARA DE COMERCIO JAPONESA: Avenida Roque Sáenz Peña 618. — U. T. 33-1462.</b></p>
<p><b>B. TAKINAMI</b> Importador Casa Establecida en el año 1905 <b>VICTORIA 733 - U. T. Mayo 38-3413</b></p>	<p><b>S. YOKOBORI</b> Representante de FUJISAKI y Cía. <b>CANGALLO 499</b> 3er. Piso Escri. N.º 21-22 - U. T. 33-9390</p>	<p><b>Casa "YAMANAKA"</b> Oriental Fine Art Curious <b>VIAMONTE 624 - U. T. 31 7846</b></p>	<p><b>INSTITUTO CULTURAL ARGENTINO-JAPONES: Viamonte 1435.</b></p>
<p><b>I. HIROTA</b> Importador de artículos generales del Japón <b>GNILE 1680 - U. T. 37 (Riv.) 1061</b></p>	<p><b>TARO MURAI</b> Unica Casa Introdutora de Porcelana "NORITAKE" <b>MAIPU 463 - U. T. Retiro 31-3189</b></p>	<p><b>K. YASUNAGA</b> Compañía Argentina, Comercial e Industrial de Pesquería <b>DEFENSA 1597 - U. T. 33-7769</b></p>	<p><b>ASOCIACION JAPONESA: Patagones 840. — U. T. 23-4893.</b> <b>COMPANIA DE VAPORES O. S. K.: CANGALLO 462</b> U. T. 33-1051 - 1052 - 1053 y 9998</p>